

# ウメ核の形態特性による品種識別

## 1. はじめに

近年、消費者の食品安全性に対する関心は強く、食品の原産地を知りたいという消費者ニーズは高まりつつあります。その中で、ウメは中国等からの輸入量が急増しており、国内外の産地間競争も激しくなっているため、ウメの原産地表示判別技術の開発が一段と強く望まれています。

ここではその一環として行った核の形態特性による品種識別試験の結果を紹介します。

## 2. 調査方法

核の形態特性（縦径、横径、幅、核形態比率）を調査し、これらの数値のバラツキをみるため変動係数（標準偏差÷平均値×100）を算出しました（写真1）。

調査果実は、地域・管理については和歌山県の主要品種「南高」を、品種については21種を用いました（表1）。

区分	内容	
地域	県内17市町村	138カ所
管理	着果量、階級、樹勢、施肥量、台木、熟度	以上は「南高」を供試
品種	「南高」を含む 21 品種	
樹上完熟	2L果	原則 3樹混合
	1kg	約30果採取、内15果を測定

表1 供試品種一覧

南高	古城	小粒南高	改良内田	皆平早生
紅サシ	地蔵	加賀地蔵	白加賀	鶯宿
新平太夫	花香味	白粉梅	玉英	白玉
八郎	二青梅	スモモウメ1号	スモモウメ2号	豊後
西洋梅				

表2 ウメの核形態特性変動係数

サンプル	核形態			核形態比率		
	縦径	横径	幅	横径/縦径	幅/縦径	幅/横径
<地域別>	7	6	6	5	6	5
<管理別>	8	7	7	5	7	4
<品種別>	13	16	14	8	9	7

## 3. 調査結果

「南高」核の地域・管理における核形態および核形態比率の変動係数は10以下であり、変動幅が小さいことから、核の形態はこれらの条件に左右されにくいことが示されました。

これに対し、異なる品種間における核形態の変動係数は縦径、横径および幅で高くなり、変動幅が大きいことから核の大きさは品種によって異なることが示されました（表2）。

以上の結果から、核の形態特性は品種識別に利用できる可能性が示唆されました。

## 4. おわりに

ウメ原産地表示判別技術の開発は複数の研究機関と協力しながら進めています。核の形態・模様等を数値化し、品種を識別する方法については、農業技術研究機構果樹研究所も研究しています。

核の形態特性を品種別に数値化できれば簡便な品種識別が可能となるため、この技術の早期実用化が期待されています。

（うめ部 行森 啓）



写真1「南高」核